

顔の虚記憶に対する脳反応には、扁桃体と前部帯状回が関係していた！

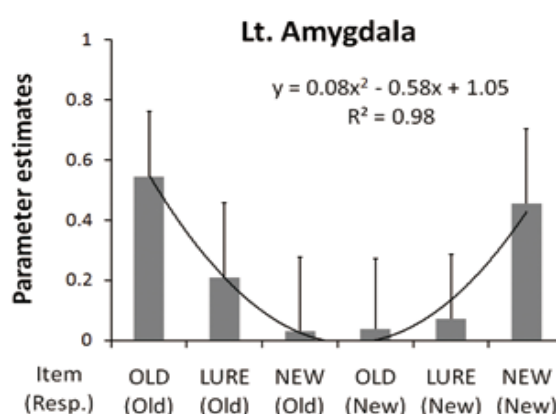
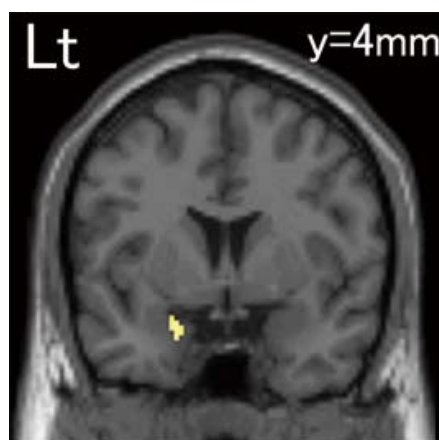
知人ではないはずなのに、容貌が似ているため見知った人物と判断してしまうことがあります。このような顔の虚記憶は日常的に良く見られますが、その時の脳内活動は今まで報告されていませんでした。計画班員の飯高らは、この現象を実験的に起こすことに成功しました。さらに fMRI を使って、その時の脳反応を計測しました。

その結果では、扁桃体は顔が既知である場合と未知である場合は活動が上昇します。虚記憶を起こした顔では、扁桃体はそれらのちょうど中間の反応強度を呈しました。さらに前部帯状回の反応は、虚記憶を起こした顔に対して特異的に上昇していました。これらの結果は扁桃体が顔刺激の記憶に関する顕著さ（salience）に敏感に反応し、帯状回は未知／既知の判断に関わっている可能性を示しています。この結果は *NeuroImage* 誌に掲載予定です。

Neuroanatomical Substrates Involved in True and False Memories for Face

Tetsuya Iidaka, Tokiko Harada, Jun Kawaguchi, Norihiro Sadato

NeuroImage (in press)



実験的に惹起された顔の虚記憶には、扁桃体の活動が関与していた（左図）。

さらに各実験条件別に扁桃体の活動をプロットすると、既知（左端）と未知（右端）では反応が高かった。さらに虚記憶条件（左から2番目）では、それらの中間の値をとり、全体として記憶の段階により U 型の反応を示した。

本論文は印刷中ですが、下記の URL から全文を読むことができます。

<http://dx.doi.org/10.1016/j.neuroimage.2012.04.044>

2012 年 5 月 1 日

名古屋大学 大学院医学系研究科 飯高哲也